成果名	センチピードグラスとイタリアンライグラスを利用した周年放牧技術		
［要約］センチピードグラス草地では 1 頭あたり 12a、イタリアンライグラス草地では 12 ～ 3 月の間は 1 頭当たり 42a、4 ～ 5 月の間は 1 頭当たり 18a あれば昼夜放牧ができ、2 草種の組み合わせによる周年放牧が可能である。			
機関名	畜産試験場　草地・放牧経営部	連絡先	0974-76-1216

［背景・ねらい］

転作水田や遊休農地において、暖地型シバによる周年放牧技術を確立し、肉用牛の省力的管理方法に資する。

［成果の内容・特徴］

1　放牧体系は、輪換放牧とした。

2　センチピードグラス草地（表 1）

1）　播種翌年（1 年目）の牧草生産量は概ね 400DMkg/10a で、年次を重ねるにつれて増加し、3 年目には概ね 1,200DMkg/10a 確保できた。

2）　その結果、3 年目（6 ～ 11 月）は、1 頭当たり 12a、1ha 当たり 8 頭/日 昼夜放牧できた。

3　イタリアンライグラス草地（表 2）

1）　牧草の冬利用時（12 ～ 3 月）と春利用時（4 ～ 5 月）では牧草生産量と利用率が大きく違い、冬利用の生産量は 675DMkg/10a で利用率は 74%、春利用の生産量は 242DMkg/10a で利用率は 24%であった。

2）　その結果、12 ～ 3 月の間は 1 頭当たり 42a、1ha 当たり 2 頭/日 昼夜放牧でき、4 ～ 5 月の間は 1 頭当たり 18a、1ha 当たり 5 頭/日昼夜放牧できた。

4　放牧牛の健康状況

3 年間を通して供試牛は、各牧区及び草種に関係なく、健康状態及び分娩には影響はなかった。

以上の結果から、センチピードグラスとイタリアンライグラスを組み合わせることにより周年放牧は可能である。（表 3）

［普及対象］　転作水田及び遊休農地等

［成果の活用面・留意点］

1　センチピードグラス草地の造成は、関係資料を参考とする。

2　放牧の際は、一般的な放牧馴致をする。

3　1 ～ 2 月は牧草の生産量が少ないので、泥ねい化に注意し、必要に応じ補助飼料を給与する。

4　4 ～ 5 月は草地利用率が下がるので、牧草の生産量に応じて採草する必要がある。

［関連データ］

表１　放牧利用状況（春～秋）

	センチピードグラス草地（6～11月）		
	１年目	２年目	３年目
利用期間	7月中旬～10月中旬	5月中旬から10月中旬	4月下旬から11月上旬
牧草生産量（DMkg/10a)*1	398	467	1,198
草地利用率（%）	75	63	45
1頭当たり放牧必要面積（a）*2	**22**	**16**	**12**

＊１）利用期間内の入牧時草量の総計
＊２）６～１１月（１８２日間）で換算

表２　放牧利用状況（冬～春）

	イタリアンライグラス草地			
	冬利用（12～3月）	春利用（4～5月）		
	3年目	1年目	2年目	3年目
利用期間	11月上旬～3月中旬	4月中旬～5月中旬	4月上旬～5月中旬	4月中旬～5月下旬
牧草生産量（DMkg/10a)*1	675	489	409	242
草地利用率（%）	74	52	47	24
1頭当たり放牧必要面積（a）*2	**42**	**30**	**22**	**18**

＊１）利用期間内の入牧時草量の総計
＊２）冬利用は１２～3月（１２０日間）、春利用は４～５月（６０日間）で換算

表３　イタリアンライグラスとセンチピードグラスを組み合わせた周年放牧体系

草種	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月
イタリアンライグラス	――	――	――	――	――	――	――	――	播種	――	放牧開始	――
					×（放牧終了）				○		×（放牧開始）	
センチピードグラス（1年目）					*播種*		*放牧（雑草の掃除刈り）*					
					○		×――	――	――	――	×―	
センチピードグラス(2年目以降)					放牧開始	――	――	――	――	――	放牧終了	
					×	――	――	――	――	――	×	

注１）12～3月の間、イタリアンライグラスの収量によって補助飼料を給与する。
注２）センチピードグラス（1年目）の放牧は、造成を良くするために放牧等により雑草をなくし、
　　陽当たり良い状態にする。
注３）センチピードグラス（2年目以降）の3～4月は雑草との競合を考え、早めに放牧を開始する。

［発表文献　等］

九州農業研究第 64 号（平成 14 年度）
畜産試験場成績報告書（平成 11 ～ 13 年度）